

# English Garden 第83話

"I only took the regular course; Reeling and Writhing, of course, to begin with."

Lewis Carroll

## 「私は正課をやっただけだ。まず最初はもちろん、読口メキ方とモ書キ方さ」 ルイス・キャロル

前回に続き『ふしぎの国のアリス』(" Alice's Adventures in Wonderland"の中から、アリスと Mock turtle (にせ海ガメ) が学校について話している場面を取り上げました。カメも子どものころには海の中の学校に通ったというので、話がはずみます。でも、カメは「お金がなくて、あまり習えなかった」といって、ため息まじりに表題の言葉を口にしました。お察しの通り "Reeling" は Reading, "Writhing" は Writing のことで、この辺は本来の言葉をもじった言葉遊びの世界です。日本でも学習の基本を「読み書きソロバン」というように、カメの話題も次は算数です。カメはどんな言葉を持ち出したか、次にその「キャロル語」に取り組んだそれぞれの訳者の訳語を表にしてみました。



本来の言葉	キャロル語	福音館版	偕成社版	岩波少年文庫版
Addition (足し算)	Ambition	つけ足し算	タッシャ算	大志算
Subtraction (引き算)	Distraction	引きくるい算	カゼヒキ算	変気算
Multiplication (掛け算)	Uglification	追いかかけ算	カッケ算	足書き算
Division (割り算)	Derision	あざ割り算	オワリ算	笑い算

本来の意味とキャロルの使った言葉の意味とを何とか生かそうとしている訳者の苦心が読み取れます。このあたりが「言葉の魔術師」といわれたキャロルの腕の見せどころで、注意して読むと、さまざまな仕掛けがほどこされているのがわかります。

また、この物語には『ソフィーの世界』でおなじみの「私は誰」という哲学的な問いかけが出てきます。アリスは薬を飲んだりお菓子やきのこを食べたりするたびに大きくなったり小さくなったりするので、自分がどういう存在かわからなくなってしまいます。そこで Catapillar (イモムシ) に "Who are You?" と聞かれると、けさ起きたときには自分は誰かわかっていたけれど、「いまは私は私でなくなってしまったので説明できない」と答えて、自分のアイデンティティに関わる問題を提起するのです。

この問いかけをしたイモムシは、サナギから華麗なチョウに変身してもアイデンティティは変わらないことから、アイデンティティの問題ではよく引き合いに出されます。

著者のルイス・キャロルは、本名はチャールス・ドジソン (Charles Dodgson) といい、オックスフォード大学の数学と論理学の先生で、少年時代から詩や散文を書いていました。キャロルははにかみ屋で、あまり社交的ではなかったようですが、小さい女の子たちには人気がありました。ある日同僚の先生と一緒に、学寮長リデル先生の三人の娘、ロリーナ、アリス、イーディスをボート遊びに連れていき、ボートの中でアリスを主人公にして即興のお話をしたのがこの物語だということです。

それから3年後の1865年、この物語は推敲されたのち、当時の有名な風刺画家ジョン・テニエルの挿絵で出版され、たちまち大評判となりました。この作品は子どものための楽しい空想物語であるだけでなく、大人が読んで也十分おもしろい内容であるため、児童文学の古典として現在でも世界じゅうの人びとに愛読されています。

(次回に続く)